

# 福島<sup>①</sup>の食の安心はどこにある？

## ～港町の現場から～

小松 理虔



## 小松 理虔 地域活動家

- 2012年～ 地元かまぼこメーカー広報
  - 2013年～ いわき海洋調べ隊 うみラボ 開始  
2019年までに30回の調査  
200検体ほどを測定
  - 2015年～ 独立
  - 2016年～ 食イベ「さかなのば」開始  
2019年までに30回の開催  
のべ1500人以上の動員
  - 2018年～ 『新復興論』 上梓
  - 2003年～06年 福島テレビ報道部記者
  - 2006年～09年 上海にて雑誌編集者
- 専門：媒体の企画、制作  
プロジェクトマネジメント

# うみラボの実践





Te  
Lucky Nothing



Lucky Red  
SINCE 1991 U.S.A.





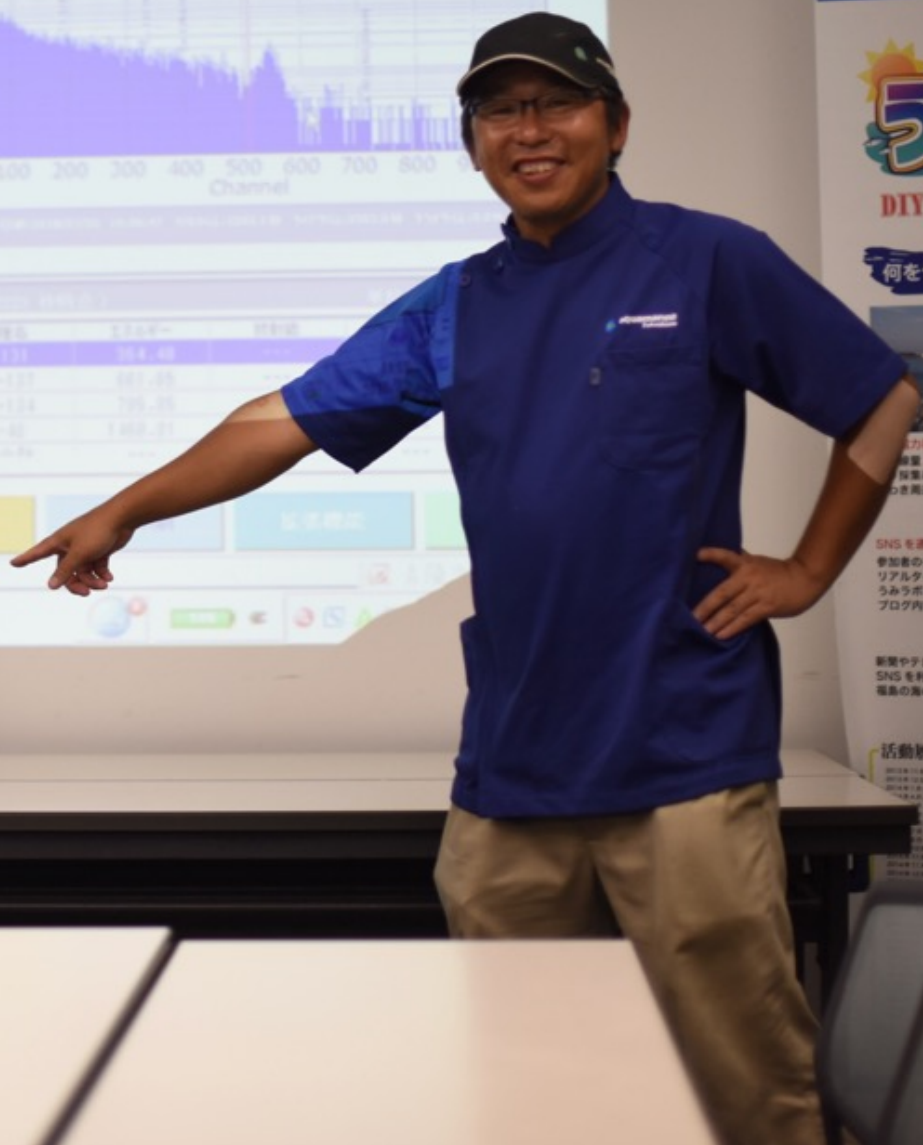












いわき海洋

**うまぽ**

DIYで調べよう!

何をやっているの?

放射能第一歩！自力検出器で海洋調査

放射能・海水・海底土の放射性物質測定

汚染による海水角の放射性物質測定

汚染土壌角測定

SNSを通じての情報共有

参加者の多くはTwitterを利用しており、リアルタイムで情報を拡散する。うまうま専用HPにて、より詳しく情報を提供。ブログ内容がSNSを通じてさらに拡散。

新聞やテレビなど既存メディアの取材。SNSを利用していない人にも情報が伝わる。福島県の現状が多くの人に伝わる。

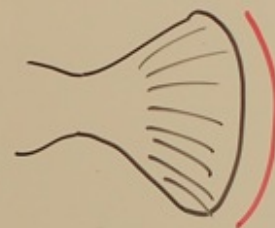
活動履歴





アイクメ科  
アイクメ属

- ・アイクメ ↑
- ・クジメ ↑
- ・ウサギアイクメ (魚の尾)
- ・エゾアイクメ (魚の尾)
- ・スジアイクメ (魚の尾)



クジメ

アイクメ科  
ホッケ亜科  
ホッケ属

- ・ホッケ →
- ・キタノホッケ <



ホッケ







## 民間人、素人の集まりであったこと

- ・セカンドオピニオン
- ・不純な動機
- ・ボトムアップの発信
- ・抜群の発信力
- ・不安への共感力
- ・専門家と現場のコミュニティデザイン

## 水族館とのコラボ企画であったこと

- ・データの信頼性の向上
- ・水族館の信頼性
- ・科学と情緒の二面作戦
  - カーネマン『ファスト&スロー』
- ・子どもたちへの学習機会



## わかったこと

- ・ データがすべて
- ・ 放射性物質は流出しているが、検出できるほどではない
- ・ 福島の魚は資源回復していてそちらの方が問題
- ・ 科学的なデータは判断材料の「ひとつ」にしかねない
- ・ ぼんやり不安、ぼんやり安全は紙一重
- ・ 多様な発信チャンネルが必要
- ・ それでも選ばない人はいる（でも1割）
- ・ 不安の原因は多様である
- ・ 日本はそもそも科学が尊重される国ではなかった
- ・ そもそもおれたちがやるべきだったのか問題
- ・ 安全だからといって、魚が売れるわけではない問題
- ・ 科学の専門家はコミュニケーションの専門家ではない
- ・ リスクコミュニケーションではなく「リスク管理」になっている
- ・ 様々なレベルでのコミュニケーターがやはり必要

# メディアで起きたこと

- ・ データは出す一方で、両論併記記事も減らない
  - ▶ 買う人9：買わない人1 だとしても両論併記で5割に見えちゃう
- ・ 決め打ち、スタンス固持でやってくる
  - ▶ 「普通のこと」は伝えてくれないので中庸が失われる
- ・ 取材のテーマが多様じゃない
  - ▶ 資源管理型漁業などテーマを「ずらす」ことも必要
- ・ 検出されたのを報じても、その後のニュースは放置
- ・ そもそも放射線のことや、海洋のことを知らなすぎる
  - ▶ ようやく理解してきても3年で異動
- ・ センセーショナルリズムに陥るか、感動ポルノか
  - ▶ 伝え方の画一化、語る人との多様性のなさ
- ・ 過度に東京中心主義的報道
  - ▶ AERA「放射能がくる」

## 現場で起きたこと

- ・ 実際にはみんな「なんとなく」で動いている
- ・ SNS上の議論と現実はかなり乖離している（のをみんな忘れている）
- ・ 集会所のじいちゃん、ばあちゃんに伝えられるか
- ・ 媒介となれる人は、実はあまりいない
- ・ メディアはコミュニケーターとしては機能しない
- ・ 地域の現場に入れるコミュニケーターが必要
- ・ 学べる場の不在

## ぼく個人の心の中で起きたこと

- ・ データや科学的な知見による「啓発期」
- ・ 不安だという人たちに対する「寛容期」
- ・ 変えようもないという諦めからの「共存期」
- ・ 自分で、できる範囲で、物事を作り、伝えるほかない

## 今後の希望

- ・ 伝えっぱなし、ではない報道
- ・ 学べる、考える、交流できる場の提供
- ・ 現場の声の収集
- ・ 権威主義的、単一的ではない複数の伝え方
- ・ ローカルな課題の伝え方の工夫
- ・ コミュニケーターの育成